

発達障害のある子どもの支援を考える —これまでとこれから— 参加のご案内

- ◆ 期 日 平成21年2月13日(金)
- ◆ 会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
- ◆ 定 員 700名
- ◆ 主 催 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

「発達障害者支援法」の制定や特別支援教育の理念に基いた、発達障害のある子どもへの具体的な支援の在り方は、喫緊の課題であり、本研究所においても、これまでこの課題に対応した研究に取り組んできました。折しも本研究所では、今年度から新たな事業として、発達障害のある子どもを支援するための教育情報を発信することを目的として「発達障害教育情報センター」を設立しました。また、今年度は国連において、世界自閉症啓発デー（4月2日）が制定されるなど国内外で発達障害への取組が期待されています。

そこで、本セミナーⅡでは、発達障害教育情報センター事業の紹介、及び発達障害のある子どもの教育に関する今までの研究成果と、それを引き継いで現在進行中である研究に焦点を当てて実施します。

シンポジウムでは、保護者、教育関係者、医療・福祉関係者をシンポジストにお願いして、それぞれの立場から連携のための情報共有に関して提言をいただきます。分科会では、第1分科会として「一貫した支援システム」、特に後期中等教育に焦点を当てて話を進め、第2分科会では「発達障害の脳機能に迫る」と題して、脳科学の学校現場への応用の可能性について探っていきます。

また、発達障害のある子どもの教育に限らず、平成19年度に終了した研究課題について、ポスター形式での成果発表を行い、参加者と直接意見交換ができるように計画いたしました。

多くの方々のご参加をお待ち申し上げます。

国立特別支援教育総合研究所セミナーⅡ 実施ワーキンググループ長

西 牧 謙 吾

日 程

(カルチャー棟 大ホール、小ホール)

9:00	9:30	9:45	11:45	12:15	13:15	14:15	16:30
受付	開 会	シンポジウム	センター 紹介	休 憩	ポスター発表	第1分科会 第2分科会	

シンポジウム

関係機関の連携・情報の共有化による総合的な支援の確立を目指して

9:45～11:45

障害のある子どもたちの一貫した支援では、関係機関の連携や情報の共有化が重要となります。

今年度、本研究所に設置した「発達障害教育情報センター」では、教育関係者、保護者等のニーズに応じた最新の情報を提供していこうと鋭意努力しているところです。研究所としては、都道府県等や研究機関、NPOなど多くの関係機関等と連携・協力し、相互に情報交換することが重要であると考えています。

本シンポジウムでは、保護者の立場から全国LD親の会会長の内藤氏、教育関係者として東京学芸大学教授の上野氏、さらには、医療・福祉・労働関係者として、厚生労働省専門官の日詰氏をお招きして、発達障害のある子どもの支援のための連携、特に情報共有の在り方について、それぞれの立場から提言をいただきます。

司会 笹森 洋樹（国立特別支援教育総合研究所）

【シンポジスト】

内藤 孝子 氏（全国LD親の会 会長）

上野 一彦 氏（東京学芸大学総合教育科学系臨床心理学分野 教授）

日詰 正文 氏（厚生労働省精神・障害保健課 発達障害対策専門官）

発達障害教育情報センターの取組の紹介

11:45～12:15

今年度、本研究所内に「発達障害教育情報センター」を設置いたしました。

「発達障害教育情報センター」では、発達障害のある子どもの教育の推進・充実に向けて、発達障害にかかわる教員及び保護者をはじめとする関係者への支援を図り、さらに広く国民の理解を得るために、Webサイト等による情報提供や理解啓発、調査研究活動を行います。

ここでは、当センターの具体的な取組を紹介いたします。

渥美 義賢 国立特別支援教育総合研究所 発達障害教育情報センター長

ポスター発表

13:15～14:15

国立特別支援教育総合研究所で実施した平成19年度終了研究の成果について、研究担当者よりポスターを用いて報告します。

分科会

14:15～16:30

第1分科会 一貫した支援システム —後期中等教育に焦点を当てて—

重点推進研究「障害のある子どもへの一貫した支援システムに関する研究
—後期中等教育における発達障害への支援を中心として—」

障害のある子どもへの支援は、できるだけ早期から開始し、社会参加に至るまで、個々の特性に応じて一貫性を持って行われることが重要です。本研究では、発達障害を中心として、それを可能にするために必要な国及び地方公共団体が構築すべきシステムについて研究を進めています。平成18～19年度のプロジェクト研究では、早期の支援システムを中心にグランドデザインの提案を行いました。その検証を含めつつ、今年度からの研究としては主に後期中等教育段階に焦点を当てて研究しています。

本分科会では、高等養護学校、通常の高校、定時制あるいは通信制高校からシンポジストをお招きし、中学校から高等学校へ、高等学校から就労等への移行の部分を含めた支援の取組について話をしていただき、参加者との意見交換をしながら支援のポイントや課題を共有していきます。

司会 藤井 茂樹（国立特別支援教育総合研究所）

[シンポジスト]

高田 幸治 氏（東京都立世田谷泉高等学校 教諭）

高井 麗子 氏（福島県立川俣高等学校 教諭）

茂木 純子 氏（宮城県立養護学校岩沼高等学園 教諭）

コメンテーター 佐藤 紘昭 氏（弘前大学教育学部 教授）

第2分科会 発達障害の脳機能に迫る —脳科学からの理解—

専門研究A 「障害のある子どもの教育に応用できる脳科学に関する研究」

セミナー全体のテーマである「発達障害のある子どもの支援を考える」を受けて、脳科学面から、学習機能を取り上げます。学校教育の中で、「読む」、「書く」は、小学校1年生で学び始める国語科の重要なテーマですが、子どもの発達と脳機能の観点からは、十分に指導原理の議論が尽くされていません。そこで、まず、室橋氏より発達障害の中でも、学習障害をモデルに、脳機能と指導法を結びつける試みを紹介していただきます。

また、発達障害の障害特性を理解するために、各種知能検査が学校現場で導入されていますが、脳科学的な原理が十分に理解され、それらを活用していることは少ないと思われます。そこで、前川氏より、DN-CASという知能検査をご紹介いただき、脳機能の中で認知機能の原理を学ぶ機会を提供いたします。

最後に、これらの情報提供を受けて、現時点での脳科学の学校現場への応用の可能性について議論を行います。

司会 玉木 宗久（国立特別支援教育総合研究所）

[シンポジスト]

室橋 春光 氏（北海道大学大学院教育学研究院 教授）

前川 久男 氏（筑波大学人間総合科学研究科 教授）

コーディネーター 西牧 謙吾（国立特別支援教育総合研究所 上席総括研究員）

◆ 参加申込み

- (1) 申込み要領
- (i) インターネットによる申込み
研究所ホームページ(<http://www.nise.go.jp/>) 右上「研究所セミナーⅡ参加申込み」から、必要事項を記入し申し込んでください。後日e-mailにて参加票をお送りします。
 - (ii) FAXまたはe-mailによる申込み
別紙参加申込書(様式)に必要事項をご記入の上、FAXまたはe-mailで、お申し込みください。後日FAXまたはe-mailにて参加票を返送いたします。なお、参加申込書用紙は研究所ホームページ(<http://www.nise.go.jp/>)からダウンロードできます。
- (2) 申込み期間 平成20年12月8日(月)～12月19日(金)
※ 12月8日以前の送信は、受け付けいたしませんのでご注意ください。
※ 先着順で受け付け、定員を超えた場合は小ホールでの映像視聴となります。
- (3) 申込み先 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所総務部企画調整課企画係
〒239-8585 神奈川県横須賀市野比5-1-1
TEL 046-839-6806 (又は6808)
FAX 046-839-6919
e-mail seminar@nise.go.jp
- (4) 定員 700名
- (5) 参加費 無料
- (6) 昼食 構内の施設等をご利用ください。
- (7) 宿泊 宿泊が必要な場合は、各自で手配してください。
- (8) その他 録音・撮影はできませんので、ご留意願います。

